

「face to faceを科学する」月刊イベントマーケティング

EVENT 40 MARKETING

October 31, 2018

特集
2019年に“くる”
最新EventTech



今月のインタビュー

(一社)日本エレクトロニクスショー協会
Inter BEE プロジェクトマネージャー
石崎 芳典さん

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 5F
TEL03-6721-5303 sofu@event-marketing.co.jp

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp



表も裏も両面知るからもっと深〜く楽しめる

表紙の写真は本紙8p(裏面)で紹介した「e-Circuit」での『グランツーリスモ 真剣勝負・自動車メーカー対抗戦』の出場選手入場の一場面。観客は入場コールに「わぁーっ」「おっっ!」と歓声をあげていた。

こんな風に空間全体を赤く、色で染めていたのは入場のシーンなど、レース本番の前後だけ。いざレースが始まると、ステージ左右

に水平に流れるLEDの光は白の光に変わる。観戦者がレース画面を映すスクリーンに集中できるようにするためだ。

「e-Circuit」は、“e-Motor Sports”のリアルイベントとして展開された。日本でe-Sportsイベントがふえてきているものの、プレイヤーや観戦者、企画・運営者も経験が少ないなか、この場の体験者からは写真とともに「ちゃんと

スポーツだった」「本物だった」「ゲームがリアルを追求し続けたことで、スポーツに昇華した」といった表現でポジティブな発信がされていた。その言葉からは、本物のスポーツ観戦の興奮ぶりがうかがえる。

「今回のような舞台で走れるように練習している」といったプレイヤー側からの声もある。スポーツとしてはもちろん、イベントの新しい

分野のこれからの、エンタメとしても、マーケティングアプローチとしても、演出手法を含めてワクワクしながら表舞台と舞台裏とを取材した。

e-Sportsの観戦に欠かせないのが、映像機器。そんな文脈で、ライブ・エンターテインメント向けの機材やサービスが多く出展する「Inter BEE 2018」を巡ろうと思っている。



一人で全部
やりきれない...

アナログなやり方
もうやめたい!

イベントやったことない
自分が担当!?

今のフォームじゃ
受付が大変...

有料セミナーだと
集金が手間...

データ分析も
面倒だし...

EventRegist
eventregist.com

＼そのお悩み、解決できるかもしれません/
イベント・セミナー主催者様向け
個別相談会実施中!

詳細・参加申込はこちら
<https://eventregist.com/p/Eventregist-events>

イベントレジスト株式会社
<http://eventregist.com> | contact@eventregist.com

2019年に“くる”最新 EventTech

日本で国際メガイブントの開催が続くゴールデン・スポーツイヤーズ。ラグビーワールドカップは2019年9月。もうそこまで来ている。前回の東京五輪では、カラーテレビが普及、新幹線・高速道路が開通。メガイブントは新しいテクノロジーを生んできた。今回の特集では、4K中継車、高輝度プロジェクター、顔認証、アプリなど2019年以降のイベントを彩るツールやテクノロジーを紹介する。

「ラグビーワールドカップ2019」でも活躍!?

4K HDR中継車

今年の5月に開発されたばかりの「大型4K HDR中継車R-2」は、スポーツ中継ができる大きさの最新型。

映像総合プロダクションのテーク・ワンでは、プロ野球中継やサッカー中継、アーティストのライブ中継などを行っている。カメラが50台以上のコンサート中継からコンパクトなイン



ターネット中継まで、あらゆる中継スタイルに対応する。

スポーツスタジアムやライブ会場などでもメディアセンターが用意されている場合もあるが、まだハイビジョンの2K対応のシステムも多く、4Kの高精細な映像を映し出す際には「4K HDR中継車」が駆けつける。来年の「ラグビーワールドカップ2019」での活躍も期待される。



スポーツ・エンタメのライブビューイングに!?

8Kプロジェクター

デルタ電子がデルタグループ関連会社の Digital Projection Ltd と共同開発したプロジェクター「INSIGHT Laser 8K」が10月から日本で正式販売を開始した。

「INSIGHT Laser 8K」は DLP®方式のレーザープロジェクターでは世界初の8Kの解像度を実現。25000lm という高輝度・長時間運用も可能で、高精細で臨場感にあふれる映像を再現できるようになった。2018年12月に4K・8Kの実用放送を開始する日本市場に力を入れる。

パブリックビューイング、テーマパーク、プラネタリウムなどのほか、メガイブントでは8Kディスプレイ技術や5Gデータ伝送など、世界へ向けた展開が予想される。実際



に、プレス発表が行われた上映コンテンツには「東京ガールズコレクション」(IMAGICA GROUP 制作)での事例を紹介。スポーツイベント、ファッションショー、演劇など、現場の臨場感をそのまま捉えることができる。

11月14日～16日幕張メッセで開催される「Inter BEE 2018」では、アストロデザイン/デルタ電子ブースで「INSIGHT Laser 8K」が登場する。(「Inter BEE」については本紙5p記事参照)

感動体験
記憶に残る

move

“心地の良い上質環境”と“景観も含めた一体感のある空間”をプロデュース
ユニークベニューや各地の歴史・文化・景観もイベント要素に取り組みながら、
大型テント内に、上質かつ心地よい各種のイベント空間をプロデュースします。

総合レンタル業のバイオニア
西尾レントオール株式会社 TOTAL POWER by NISHIO

お問い合わせ

〒108-0022 東京都港区海岸3-20-20 ヨコソーレインボータワー1F
TEL: 03-5765-9240 FAX: 03-5765-3240
e-mail: mitsuyasu.ookubo@nishio-rent.co.jp (窓口: 大久保)



イベントを、もっとラクに、
もっと楽しくできるはず

主催者の方々には、イベント参加者を満足させることに集中して欲しい。そんな想いから生まれた、イベント主催者向け情報サイトが「イベントバズール」です。イベント会場、集客ツール、運営サービス、ケータリング、などなどイベント開催に欠かせない情報を、ワンストップでチェックできるサイトを目指しています。

いま、イベントバズールは、皆さまのお役に立つため、さらに見やすく、さらに情報を増やして、生まれ変わろうとしています。



ただいま、リニューアル中
もう少々お待ちください

今なら無料

掲載社・サービス・イベント告知 募集中



<http://eventbuzzle.com>

アプリが変える参加者体験
イベントス 1.0

年明け発表へ

アプリ制作を手がけるブレイブソフトは、イベントに特化した「eventos」事業を立ち上げ、展示会や企業イベントのアプリで業界屈指のシェアを誇る。イベント運営に必要なコンテンツを多数ラインナップすることで、最短5日でのアプリ制作、経費削減、行列の解消などが可能。ビーコンを使った来場者行動解析、プッシュ通知によるリアルタイム集客など、イベントの付加価値をあげる取組みも行っている。

現在ブレイブソフトでは、さまざまな新機能を盛り込み「eventos1.0」の名前で年明けのリリースへ向け開発中。「1.0」には、来場者同士のチャットができるポータル機能、UI・UX向上、電波が繋がりにくい会場でも快適に操作できるネイティブ機能など、利用者・主催者の利便性を向上するコンテンツが多数含まれるという。



先端技術企業のコンソーシアムに参画

先進技術の開発や導入の活用を推進するため、テクノロジー系企業があつまり情報技術の共有、共同開発や実証実験を行う「未来チャレンジコンソーシアム」が設立された。設立時点の参加企業は、ブレイブソフト、トランスコスモス、レノボ・ジャパンなど8社。



設立発表会のパネルディスカッションではブレイブソフトの菅澤英司 CEO が「ビジネス発展のためにイベントは大きな役割を果たす。

継続的コミュニケーションをとるチャットや、ビーコンの位置情報などイベントのアプリでも先端技術の活用が進んでいる」と語った。

スポーツテック加速へ
電通がスタートアップ支援

電通と米国の投資会社 Scrum Ventures LLC が、スポーツ分野で優れた技術や事業アイデアを持つスタートアップを世界から募り、メンタリングや競技団関係者・選手をアドバイザーボードに迎えてネットワークとプレゼンテーションの機会も提供する。「SPORTS TECH TOKYO」

を日米で開催。募集期間は来年1月8日まで。事業開発ラウンドは来年1月から約半年間、キックオフ、マッチング、メンタリングなど。活性化ラウンドは来年中盤から約半年間。プロダクト・サービスに合わせた実証実験などを行う。



KAOPASS 動画のヒトに聞いてみた！



受付ってイベントで最初の体験なんです
イベントレジスト 村松 烈さん

8月29日に開催されたBACKSTAGEで参加者が最初に驚いたのはKAOPASS(カオパス)。タブレットに顔を近づけるだけでピピッと受付できる。



顔認証の動作はスムーズ

「受付はトラブルがなければ十分という考え方もありますが、参加者が最初に触れる場所であり、イベントの玄関みたいなもの。主催企業のイメージにつながる場所なんです」とKAOPASSを提供するイベントレジストの村松烈さんは話す。本人確認や転売防止といったイベントでのニーズのほかに、通常通りしている受付を新しい体験価値提供の場に変える。

KAOPASSはNECの顔認証クラウドサー

ビス「NeoFace Cloud」とオンラインイベントプラットフォーム「イベントレジスト」を組み合わせたサービスだ。空港のセキュリティのような大規模システムではなく、クラウドとタブレットで運用されるKAOPASSは、設置が簡単でメンテナンスも不要だ。

顔認証というわかりやすく驚きがある体験が評判をよび、村松さんは多くの引き合いに対応する日々だという。



イベレジと一緒に働こう！
イベントレジスト 谷川 ゆりか さん

プラットフォームの提供だけでなく、イベント主催者のさまざまな悩みを解決し、イベント運営全体の受託しているイベントレジストではイベント制作・企画のスタッフを募集している。

新卒で入社した谷川ゆりかさんは「さまざまなバックグラウンドをもつ先輩がいて、システム連携やデータ活用で提案したり、主催者の悩みを全部相談にのっていたりと、本当に同じサービスを提案しているの

かなと思うほど」と最初は驚いたという。

「自由というか、大人ベンチャーといいますが、任されているという実感がありません。会社のやり方が決まっているのではなく、それぞれのメンバーに合ったやり方があり、CEOのヒラヤマはそれにアドバイスをします。そんな企業カルチャーが良いという人と一緒に働きたいですね」と村松さんは話す。その他詳細は info@eventregist.com まで

東京ゲームショウ2018も
公式アプリ採用!

イベントに特化したアプリで課題を一気に解決!

eventos <https://eventos.tokyo/> イベントス 検索 brave soft

資料請求 お問い合わせ 03-6809-6064 (平日10:00~19:00) 株式会社ブレイブソフト event_contact@bravesoft.co.jp

MONIC RENTAL

新カタログ制作中

モニック株式会社 | 〒342-0015 埼玉県吉川市大字中井20番地1
TEL 048-984-0230 / FAX 048-984-0231

【ビッグサイトを学生クリエイターが染める】

有明冬フェス 2018

東京国際プロジェクションマッピングアワード

東京ビッグサイトの特徴的な建築デザインに、プロ顔負けのクオリティをもつ学生作品が投影される。11月17日(土)に開催される「東京国際プロジェクションマッピングアワード」がその舞台だ。

今年のテーマは「JAPAN」。最終審査に残ったのは、日本全国の15チームと、カナダから参加のケベック大学モントリオール校。当日は、投影・審査のほか作品と花火のコラボレーションも楽しめる。優秀作品はアワード終了後も定期的に東京

ビッグサイトで上映される。

空間映像の登竜門に アワード実行委員会

㈱イマジカデジタル
スケープ
早川正祐さん



映像関連の事業を行う IMAGICA GROUP のなかで、弊社はクリエイター求人情報や人材紹介、求人イベ

ントなどを手がけています。

国際的なスポーツイベントの開催など屋外空間の映像コンテンツの需要がますます高まっています。プロジェクションマッピングをやりたい学生も多いのですが、スマホやモニターの画角だけでしか体験できないと、学生の空間映像のクリエイティビティが向上しません。立体錯視を利用した高度な作品となると、高価な機材の手配や投影する建造物の使用許可などが必要ですが、学生にはハードルが高く、このアワードが貴重な機会となっています。

過去のノミネート作品には、プロとは別なアプローチも多く、私達にも刺激になっています。映像系だけでなく、建築系、技術系、美術系など多様な学生がチームを組んでいるからかもしれませんね。

このように大規模で実施する学生の空間映像コンテストは海外にもあまりないようです。家族連れでプロジェクションマッピングが楽しめるのは、映像産業の発展以外にも都市の安全性など様々な要素が必要だか



らかもしれません。今後は海外からの参加者も増えて、空間映像の国際的な登竜門にしていきたいですね。

特徴的デザイン活用 と地元貢献

有明冬フェス主催

㈱東京ビッグサイト
井上真弓さん



2014年から、デザインが特徴的な東京ビッグサイトの会議棟壁面を使ったプロジェクションマッピングを実施していました。「屋外の大空間にそびえ立つビッグサイトの壁面に学生の映像作品を投影できたら、学生にとってすばらしい経験になるのでは是非!」と実行委員会からラブコールをいただいたのがアワードに

参画したきっかけです。

弊社としてはイベント・演出関係における次世代の人材育成に貢献できるのは嬉しいことです。また、アワード受賞作品は定期的上映しており、展示会来場者や近隣エリアで働いている方や住民の方に見ていただくことで、東京ビッグサイトとして地域の賑わいづくりに貢献させていただいています。

当日は、アワード以外にも、花火の打ち上げや無料ドリンクサービスなどを実施し、有明地域の事業者さんの協力もいただいて、有明地域の冬フェスとしてイベントを盛り上げていきます。

名称：有明冬フェス東京国際プロジェクションマッピングアワード
日時：2018年11月17日(土)
16:30開場 / 17:00~19:00(上映会+花火) / 19:30~(表彰式)
場所：東京ビッグサイト 会議棟前広場
入場：無料

連続王者はテーマ「JAPAN」にどう挑む

2年連続で最優秀に輝いているデジタルハリウッド大学4年生の松本豊さんは今年、東京工芸大学・日本大学との混成チームまどろ3を結成。多様な要素が混じり合った日本の文化を、壊して新しいものをつくるスクラップビルドという行為を通して表現する。

有終の美を飾れるか?

出場全チームの紹介と作品紹介は公式ウェブサイトに掲載されている。
(<https://pmaward.jp>)



まどろ3のエントリーシートより



Vol.3

今年のテーマは「JAPAN」!

プロジェクトマッピングアワード

検索

詳細は <https://pmaward.jp>



TOKYO
INTERNATIONAL
PROJECTION MAPPING
AWARD

日本最大級!若手クリエイターによるプロジェクションマッピングのコンテスト

有明・冬フェス 2018

東京国際 プロジェクションマッピング アワード

予選を勝ち抜いた国内外16の学生チームが

「JAPAN」をテーマに制作した作品の上映会を行い、優勝チームを決定します。

フィナーレでは映像・音楽・花火が有明の夜空を彩ります。

無料のホットドリンクをご用意しておりますので、是非ご来場ください!!

11.17(土)

東京ビッグサイト 会議棟前広場

16:30開場 / 17:00~19:00 ノミネート作品上映会 & 花火 / 19:30~ 表彰式
入場無料 / 無料フードエリアあり

TOKYO BIG SIGHT



■ 有明・冬フェス 2018 東京国際プロジェクションマッピングアワード

主催：株式会社東京ビッグサイト、東京国際プロジェクションマッピングアワード実行委員会

共催：有明エリアマネジメント連絡会

特別協力：東京都港湾局

開催間近！直前インタビュー ▶ 「Inter BEE 2018」 コンテンツ・サービス切り口へ

11月14日から16日までの3日間、「(第54回) 2018年国際放送機器展」(Inter BEE 2018)が幕張メッセで開催される。ライブ・エンターテインメント業界にとってもトレンドをつかむ専門展示会として、今回の見どころ、今年のキーワードを中心にInter BEE 2018の歩き方をうかがった。

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会 Inter BEE プロジェクトマネージャー 石崎 芳典 さん



新4K 8K衛星放送開始直前！ 放送事業者9社が メッセージ

12月1日からはよいよ新4K 8K衛星放送が開始します。Inter BEE 2018の会期2週間後にサービス開始という直前のタイミングです。放送機器の受像機側であるテレビを市場に投下していく時期。主催団体の(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)では、啓発活動の一環として「Inter BEE 2018」でも広く一般に向けて紹介しています。

具体的には、今回、「Inter BEE 2018 Opening & Keynote」として、初めてオープニングセレモニーと基調講演を一体化し、500名規模で実施します。放送サービスの開始について衛星放送事業者9社によるメッセージも紹介されます。展示では、

中央エントランスの入り口コーナーと(一社)放送サービス高度化推進協会ブースで4K 8Kによって変わる番組コンテンツを、また、NHK/JEITAブースでは東芝、シャープなどメーカー各社からチューナー搭載の最新テレビの展示と新しい制作フローなどを体験いただけます。

4K 8Kによる効果には、高精細、臨場感のある高品質コンテンツで、ライブ映像やスポーツ観戦も没入感ある身近なものになることが予想されます。

映像・エンタメ分野でも期待！ 2020年サービス開始の5G

2020年に向けてサービスを開始しようとしている5G(第5世代移動通信システム)は、映像・エンターテ

インメント分野で期待されているテクノロジーです。従来のスマートフォンの100倍の通信速度があると一般に言われています。映画一本が超速でダウンロードできたり、高精細映像もストレスなくストリーミングで受信できたりするなど、映像ビジネスが変わります。

昨年からInter BEEでは通信業者のセッションはありましたが、今回はNTTドコモ、KDDI、ソフトバンクの通信キャリア3社が揃い、それぞれお話いただく「5Gセッション2018」(11/16)の基調講演を行います。NTTドコモブースでは実際に5Gの画像を高精細映像で体験できる5Gデモバスが展示されます。

5Gは高速大容量・同時多発接続・低遅延の特徴があります。コンテンツホルダーさんと映像制作会社さんに体験し、イメージを膨らましてい

ただけたらと思っています。

初の同時開催！ DIGITAL CONTENT EXPO

今年 はじめてDIGITAL CONTENT EXPOとの同時開催を行います。(一財)デジタルコンテンツ協会さんとしては、よりビジネスとして社会実装されるイベントへのシフトを検討されていました。Inter BEEでは、メディア&エンターテインメント分野の新たなユーザー体験を提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、「つくる(制作)」「おくる(伝送)」「うける(体験)」の要素を網羅した「メディア総合イベント」への発展をテーマにしています。この方向性が一致し、スムーズに同時開催が決定しました。

今回、54回目の開催の目玉として、

制作機器のイメージから、コンテンツの切り口、サービスの切り口など、新たな視点がポイントと謳っていること自体が、特徴かと思えます。

<編集部のオススメ>

樹木・芝生・砂浜の憩いエリア —INTER BEE CREATIVE MEET-UP

クリエイティブな出会いの場として、昨年から登場した「INTER BEE CREATIVE MEET-UP」。今年も、憩いの場、出会いの場として来場者に活用してもらうための企画準備が進められている。今年はクリエイター育成団体VOOKと協力し、ワークショップエリアを確立。ホール8の一角にある樹木や芝生、砂浜を目印に行くべし！

Broadmedia & Entertainment
Inter BEE 2018
11.14 水 ▶▶▶ 16 金 幕張メッセ
WHAT WILL YOU DO NEXT?
新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。
同時開催
DIGITAL CONTENT EXPO デジタルコンテンツEXPO 2018
Web入場登録/聴講予約受付中!

Inter BEEは、「コンテンツ」を中心にして「つくる」「おくる」「うける」を網羅したメディア総合イベントです。新たなメディアビジネスの可能性とテクノロジーをご体験ください。

プロオーディオ Professional Audio	映像表現 プロライティング Video Expression / Professional Lighting
ICT クロスメディア ICT / Cross-media	映像制作 放送関連機材 Video Production / Broadcast Equipment

国内最大規模！
実感と感動の試聴体験！
INTER BEE EXPERIENCE

メディアコミュニケーションが進化し、
新しいビジネスが生まれる！
INTER BEE CONNECTED

新しい映像表現の世界が、
未来を語る！
INTER BEE IGNITION

4K、8K、HDR、
最先端映像制作の現場から！
INTER BEE CREATIVE

詳細はWebでチェック！ www.inter-bee.com

運営・お問い合わせ：一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会(JESA)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル5階
電話：(03)6212-5231 FAX：(03)6212-5225 E-mail：contact2018@inter-bee.com

Proの立場で、Congress運営を、Organizeするために
Network, Footwork, Teamwork
を大切にしていきます。

株式会社ピーシーオーワークス

InterBEEの
電気工事
任せたぞ！

MEET UPの
プロデュースも
頑張ります…

INTER BEE CREATIVE MEET-UP

株式会社 鈴木電機
〒111-0033 東京都台東区花川戸 2-12-5
TEL 03(3842)8201 (代) FAX03(3845)3040
URL : <http://www.suzukidenki.co.jp>

4K 8K BS-CS110 新4K8K衛星放送 2018年12月1日開始

いま気になる！
企画の舞台裏

#06 株式会社道州舎



「知る」「学ぶ」「体験する」から伝わること



マーケティング施策を再考している方にお届けするコーナー。キュレーションアプリ antenna* に掲載されたイベント企画仕掛け人の先輩に「なぜイベント?」「効果は?」と素朴な疑問を聞いていきます。

* * *

創業より茶道とつながりの深い中川政七商店のグループ会社である道州舎(みちくさや)が、2018年春に立ち上げた新ブランド「茶論(さろん)」の8月に antenna* と共同で「特別な茶道講座「奈良で茶道はじめ～『茶論』で学ぶ、美しいお茶～」と銘打った体験イベントを開催した。その狙いや効果とは。

Q. なぜイベントを開催したのですか

『茶論』が開催している茶道講座は、「もっとニュートラルに、自由に茶道の文化にふれてほしい」「日常の中でお茶を愉しんでほしい」という思いから生まれたものです。普段着で参加でき、稽古はテーブル席で行うなど、堅苦しさや敷居の高さを感じずに新たな発見を取り入れる感覚で茶道に親しめる講座なので、新しいことに敏感で自分を高めることに意欲的な antenna* のユーザーさんとターゲットが重なると考え、イベントの共同企画を決めました。

藤本 諭美さん
株式会社道州舎
茶論 店舗
ディレクター



8月に行われた特別な茶道講座「奈良で茶道はじめ～『茶論』で学ぶ、美しいお茶～」の体験イベント

Q. 体験設計のポイントは

お茶を淹れる・点てるだけでなく、茶道文化を「知る」「学ぶ」という講義の時間もたっぷり取り入れた構成にしました。私たちが伝えたいのは、お茶を点てる技術だけではなく、茶道文化そのものだからです。そのため、講義の時間では人に話したくなるような面白い発見や気づきを得られるような内容にすることを心がけました。これらはすべて、本講座と同じ考え方です。もちろんお茶を実際に点てていただく時間も設け、本講座で経験できることを90分に凝縮した体験設計をしました。

Q. antenna* とコラボ企画のメリットは

antenna* さんからは「今回改めて企画を立てる必要は無い。普段店舗で行っている体験講座がベースで十分」との旨を伝えられました。私たちが普段行っている体験講座と同等のものを antenna* のユーザーさんに体験してもらうことによって、新たな価値が生まれる、とご提案いただいたのです。正直ブランドの

立ち上げ期はとても忙しいので、その言葉を聞いて実施のハードルが下がりました。

Q. 具体的な手応えは感じられましたか

新しいことを自ら見つける力があり、それを自分なりに楽しむことができる……といった我々が求めるターゲット像にぴったりの方々に参加してもらえたのは大きいと思います。参加者からも「茶道のイメージが変わった」、「とても楽しめたので、自分の周りの人たちにも伝えたい」など、ポジティブな反応をいただけて、それこそがこのイベントのゴールでもあったので、成功したと感じています。

Q. 今後のイベント開催の予定は

今回とても良い手応えを感じられたので、またぜひコラボレーションできたらと思います。9月には東京にも新店舗がオープンしますし、その後は全国展開も視野に入れていますので、それぞれの土地柄に合わせたやり方でプロモーションしていけたらと思っています。

図●特別な茶道講座
「奈良で茶道はじめ～『茶論』で学ぶ、美しいお茶～」



そうか!



文化を学んでから自分で点てたお茶は格別



日本の魅力発信する革新的イベントを顕彰
——第5回 JACE イベントアワード募集開始会

一般社団法人日本イベント産業振興協会(JACE)が第5回 JACE イベントアワードの募集を開始した。

2018年に国内外で行われたイベントを対象に、経済効果、地域への集客及び交流人口の増加、海外に対して我が国の魅力を発信する効果、今後のイベントに影響する技術や創造性を顕彰している。募集期間は来年

3月6日まで。

最優秀賞経済産業大臣賞(日本イベント大賞)1作品(賞金30万円)、優秀賞(部門賞)5~7作品(各10万円)、「イベントプロフェッショナル賞」1作品(30万円)が選ばれる。選考は、「コンセプト構築力」、「イノベーション活用力」、「オペレーション&マネジメント力」、「インパクト創

出力」、「経済波及効果及び集客効果」を基準に行われる。



第4回日本イベント大賞「花いけバトル」

日経イベント・プロ設立

日経グループの新イベント会社、(株)日経イベント・プロが10月1日発足。元日経ピーアール取締役副社長の今井秀和氏が代表取締役に就任。



空間活用の“革命”を語る



にぎわい空間研究所が企画・運営する「にぎわい空間創出 FORUM2018」が開催された。不動産、空間、ライフスタイルをテーマにした空間ビジネスの先端の取組みが紹介された。

行きたい! 食べたい! 欲しい!が見つかるキュレーションアプリ

antenna* があなたのイベントを応援します!

イベント告知から集客、イベントレポートまでフルセットでご提供!

オフショも充実! インフルエンサーキャスティング・動画撮影・メディア誘致・データ納品など

実施事例も多数! お気軽にお問い合わせください

お問合せ先 antenna_sp@glider-associates.com

antenna* TOKYO LIFE

第5回 JACE イベントアワード

またあの仲間と感動しよう。

応募対象	2018年1月1日~2018年12月31日の期間内に終了した国内外のイベント
応募締切	2019年3月6日(水) ※郵送の場合は必着
表彰部門	最優秀賞 経済産業大臣賞 賞金 30万円
	イベントプロフェッショナル賞 賞金 30万円
	優秀賞 5~7作品 賞金 各10万円
	推薦者 賞金 各3万円

イベント作品大募集中!

詳細はWEBで「JACEイベントアワード」検索

http://jaceeventaward.pre-cam.jp スマホはこちら

主催:(一社)日本イベント産業振興協会 後援:経済産業省

里山の四季美で 自然とつながる

国立京都国際会館のニューホールが10月に開業。10月3日・4日には「ニューホール Experience Day」を実施。既存・新規顧客と MICE 業界関係者約 400 名が参加した。

日本初の国立の国際会議場として、1966年に国立京都国際会館が開館、1985年にイベントホール、1998年にアネックスホールが完成して以来、ニューホールは20年ぶりに新設された多目的ホールとなる。

今回の建設理念には、これまでの50年間大切に守られてきた国立京都国際会館の設計思想をふまえ、これからの50年をつなぐデザインを採用。自然環境に調和するガラス屋根からは、ホワイエに光が降り注ぎ、梁のつくる影はモダンアートのようにもみえる。また、外部と内部を結ぶ、迎え入れ空間の歩廊には、里山の四季を象徴する草木、水琴窟のある庭



ニューホールの内観

を設える。新しい施設にも、周囲の山並みと調和し、日本庭園を有する国立京都国際会館らしい自然とのつながりを感じながらコミュニケーションする場の機能美があった。

4000名超えの 大型催事対応も

2000㎡のニューホールは、既存のイベントホール(3000㎡)に隣接して建てられ、一体利用では5000㎡の空間として、4000名を超える大型催事が同じゾーンで開催できる。また、2館の組合せ利用で、表彰式とパーティ、展示会とセミナー、イベント会場と受付エリアなど、異なるシーンへの展開ができる。

平成30年度以降には、2019年9月に3000人規模の「第25回世界博物館会議(ICOM2019)」、2020年4月に4000人規模の「第14回国連犯罪防止刑事司法会議」などが予定されている。

今回のニューホール開業による拡大を機に、2020年東京五輪前後の訪日招待者等の増加にともなって需要が高まる企業インセンティブにも2館一体、あるいは1館単独での展開は、演出面でも使い勝手が良さそうだ。

市内最大級の パーティ会場として

もともと「イベントホール」は京都市内でも最大級の飲食・パーティ会場だった。今回のニューホールの開業によってパーティ会場としての利用ニーズは高まることが予想される。そこで、会館では「えらべる」ケータリングサービスを開始した。ICC Kyoto ケータリングサービス(国立京都国際会館食堂)、グランドプリンスホテル京都の2社に加え、新たに

京都東急ホテル、京都ホテルオークラ、ハイアットリージェンシー京都のホテル3社の計5社から選ぶことができる。

「ニューホール Experience Day」の体験プログラムでは、5社の試食タイムが実施されたほか、会場の演出を体験できる映像デモンストレーションも展開。ニューホールは三面270度の白い巨大壁面をそのままスクリーンとして投影することができ、デモでは風神雷神図屏風のダイナミックなシーンからはじまるプロジェクトマッピングが展開された。



控え室前の水琴窟



ホワイエ出入口前の歩廊

国立京都国際会館

ニューホール OPEN







カタチにするなら、
プロのちからで。

素敵な感動のために…

株式会社シーマ

広島支店
〒730-0823 広島市中区吉島西1-27-6
TEL.082-246-7762 FAX.082-243-2281

九州支店
〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊1-9-11
TEL.092-409-4120 FAX.092-409-4128

大阪本社
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町20-10
TEL.06-6310-4100 FAX.06-6310-4110

東京支店
〒135-0015 東京都江東区千石3-1-43
TEL.03-6685-4100 FAX.03-6685-4134

京都支店
〒606-0047 京都市左京区上高野薩田町113
TEL.075-723-0430 FAX.075-723-0431

up to date designing
FUJIYA

<http://www.fujiya-net.co.jp>

ココ トココ
印象に残る いい空間を創ります

展示会・イベント・商空間の 企画、設計及び施工 のことならフジヤへ

おかげさまで、信頼されて90年。



90年の
ありがとう

展示会・イベント | サイン・ディスプレイ | 商業施設 | コミュニケーションスペース | 文化・学術施設

株式会社 フジヤ



京都支店 〒604-0076 京都市中京区東堀川通丸太町下7-4 TEL.075-211-4311
国立京都国際会館営業所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池 国立京都国際会館内 TEL.075-705-1258
札幌・仙台・東京・横浜・浜松・名古屋・大阪・神戸・岡山・広島・北九州・福岡・シンガポール



EVENT MARKETING からの大事なお知らせ

DMO / IR 地域を活性化する イベント

(仮題) 次の11月30日号で特集します



ディーラーのコスプレするかも♡

12月27日 先取り! 2019年のイベントトレンド

- 1月31日 イベントのマンパワー
- 2月28日 空間ディスプレイ
- 3月31日 イベント会場最新情報
- 4月30日 集客を増幅させるテクノロジー

広告出稿の間合せはこちら▷株式会社 MICE 研究所
info@event-marketing.co.jp (担当: 田中力)

JVRA 新会長に中島氏

日本映像機材レンタル協会 (JVRA) の総会で、ヒビノメディアテクニカル中島義人代表取締役社長の新会長就任が決定した。

JCMA が創造力のセミナー

日本コンベンション協会 (JCMA) がセミナーを実施。Empire Entertainment Japan のCEO、セオドル・ミラー氏が、子供心を大事にすることなど、アイデア創出のキーワードを語った。

モニックが新カタログを制作中

イベントや展示会に付加価値の高いイスや家具を提供するモニックが、新カタログを制作している。スポーツイベントや企業イベント等利用シーンに合わせた提案を盛り込む。

開幕試合の企画募集

横浜 DeNA ベイスターズは、開幕戦オープニングセレモニーを実施する企画・運営会社を募集。締切は11月13日。提案書や見積りなど必要書類を同社へ提出すること。詳細は同社のウェブサイトまで。

イベント・マーケター向け 11月のセミナー・イベント

- 5日 熱狂ブランドサミット 2018 @品川インターシティホール
- 8・9日 海外ビジネス EXPO @秋葉原 UDX
- 8～10日 Japan IT Week 秋 @幕張メッセ
- 12～14日 Gartner Symposium / ITxpo 2018 @グランドプリンスホテル新高輪
- 13・14日 Web 担当者 Forum ミーティング 2018 秋 @虎ノ門ヒルズフォーラム
- 14・15日 宣伝会議サミット @ANA インターコンチネンタルホテル東京

次号予告 41号は11月30日発行 <特集> DMO・IR ～地域を活性化するイベント



e-Circuit は、JAMA 主催、ソニー・インタラクティブエンタテインメント/ポリフォニー・デジタル共催のもと、トヨタ自動車、博報堂・博報堂ケトル/SIX が全体統括、全体管理をター・オー・ダブリュ、制作/実施管理をティー・ツー・クリエイティブ、システム開発や映像制作などを amana、といった運営体制で展開された (写真左)。舞台裏のようす (写真上)

お台場一帯で開催された「東京モーターフェス 2018」(10/6～8)。今回より日本自動車工業会 (JAMA) が主催し、過去最大の 40 を超えるプログラムを展開。延べ 21 万 8000 人を動員した。そんななか、ひとときわのめりな参加者が集まる空間があった。MEGA WEB で行われた「e-Circuit (イーサーキット)」だ。

ここでは PS 4 のレーシングゲーム「グランツーリスモ SPORT」をつかって、e-Sports のモータースポーツカテゴリー「e-Motor Sports」を展開。FIA (国際自動車連盟) 初の e-Motor Sports 公式戦「FIA グランツーリスモ チャンピオンシップ 2018 ネイションズカップ アジア・オセアニア選手権 決勝」が行われるなど、集中と興奮で熱気あふれる没入体験の場を提供した。

e-Motor Sports で新規ファン獲得のアプローチに手応え

「非常に可能性を感じた良いイベントでした。参加者数や視聴者数などのデータ以上に、e-Circuit の目撃者みんなが「素晴らしい」と反応してくれました」

「e-Circuit」の企画を推進したトヨタ自動車の GR マーケティング部の柳澤俊介さんは、数ではなく、リアルモータースポーツを観たことのないひと「面白い」と言ってくれた熱量を評価する。モータースポーツは地上波放送があった頃と比べて新しいファン層の獲得に苦労しているという。柳澤さんにとって e-Motor Sports は新しいアプローチの可能性を試す初のチャレンジでもあった。

その実現には、「グランツーリスモ SPORT」というポリフォニー・デジタルのゲームの力が根底にあるという上で、選手を主役に「まさにスポーツ!」という魅力を引き出すショーアップしたイベント現場力に敬意を払う。

レース中にドライバー視点のボンネットビューに切り替わると、LED バーは大きな矢印が横に流れるデザインへと連動する。スピード感を一番感じられるポイントだ



観戦体験をアップデート 興奮レベルを増幅させる没入空間

「e-Circuit」では、白熱したレース状況を空間にフィードバックし、視覚・聴覚を刺激して、サーキットの臨場感を味わうことのできる新しい没入空間体験が提供された。

モータースポーツはどこをどう楽しめばよいのか素人目線ではわかりづらいこともある。「e-Circuit」では、実況解説も選手のひとりとなりやレース展開の理解に大きな役割を果たしていたが、加えて感情を揺さぶるような演出がリアクションを引き出していた。全体統括を担当した SIX の久野祐揮さんは「スクリーン上に映るレースの状況にシンクロして、盛り上がるのタイミングがわかるようになりました。具体的にはスピード感やデット

ヒートシーンなどでの興奮度合いの増幅を、スクリーンの両サイドの LED のバーを使って表現しています」と話す。

スクリーン上のビューは 5 種類あり、

まるでレースのテレビ中継のようなカメラワークで画面が切り替わる。あまりのスムーズさに完全自動だとばかり思っていたが実際は、半自動だ。ゲーム画面のビュー切替にはスイッチャーが手動対応。10 台でレースを走れば 50 の画面を切り替える。また、LED 演出は制御システムにより自動。ただし、観戦者がよりのめりこめるよう盛り上がりに応じて演出の強弱を 3 段階用意し手動対応した。システムと人の判断とのハイブリッドな舞台裏は、レースさながらの緊迫感だったという。

「ずっと客層をみていましたが、グランツーリスモファンの方やファミリー、カップル、女性二人組、真剣にみつめる子供まで多様でした。老若男女が同じように楽しんでいたの、どこに持っていても盛り上げることができる、と確信しました」(久野さん)

柳澤さんも、久野さんも、e-Circuit での場の盛り上がりを肌感覚で共有し、その手応えをもって、e-Motor Sports からムーブメントを起こし、実際のモータースポーツ、そしてスポーツカーへと伝播する方向性の体験設計の場づくり、ビジョンをいくつも構想していた。

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者 Profile

大手メーカー・マーケター

▶年間イベント件数:約20件
デジタルマーケティングとオフラインを組み合わせて販促とファンづくりに

製薬会社 ミーティングプランナー

▶年間イベント件数:100件超
業界のファーストムーバーとして異業種のトレンドを知り講演会に活かしたい

IT 企業向け マーケティングサポーター

▶年間イベント件数:約150件
イベントマーケティングに関わるテクノロジーやツールについて情報収集したい



特集

イベントマーケティングのトレンドを国内外の事例や動向から分析し、マーケター・イベントターの皆さんと共有します。



国内・海外ニュース

ツールやテクノロジーの最新情報、開催直前概況・事後レポートなどを紹介します。



コラム

幅広い視野と独自の視点、経験をもつ著名人が執筆します。



インタビュー

リアルコミュニケーションを楽しくテーマに話題の方々ほか、インベーター、イベントマーケター、主催者の声を収録。



調査・レポート

効果測定や開催状況の集計、効果最大化の手法など、face to face を科学するレポートをお届けします。

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所: 株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABC ビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp

